

論文) 重症心身障がい者の衣服製作の取り組み

大野淑子¹⁾ 大西典子¹⁾ 張替梅菜²⁾

抄録

「ユニバーサルファッション」とは、1998年にユニバーサルファッション協会が設立とともに提唱した言葉で、年齢、体型、障がい、性別、国籍などにかかわらず誰もが豊かなファッションを楽しめる社会を創ることを目指す理念であり、ファッションそのものを示す言葉でもある。「重症心身障害児(者)」とは、重度の知的障がい及び重度の肢体不自由が重複している障がい児(者)のことで、衣服の着脱を介助されなければならないだけでなく、ファッションに対する好みを意思表示することさえ困難な人たちでもある。このような人たちにとって、豊かなファッションを楽しめるとはどのようなことなのだろう。

コロナ禍のため対面での計測や試着が難しかったこともあり、重症心身障がい者(以降利用者とする)2名の希望する衣服を製作するために、利用者の生活支援に関わる介護者を通してオンラインでの計測と試着を行った。この方法は、その利用者が希望したい服を着用する場面での姿勢や体位、着脱支援の仕方、また利用者の細かい意思表示による確認など、重症心身障がいがあることで考えるべき多くの示唆を得た。また、本研究は第47回日本重症心身障害学会学術集会において、島田療育センター(重症心身障がい児(者)施設)の運営チームによる「ファッション」をテーマにした企画として映像で紹介された。その際、重症心身障がい児(者)に関わる参加者にアンケートを取り、ユニバーサルファッションの課題とオンライン計測の有用性について考察した。

キーワード：重症心身障害児(者) ユニバーサルファッション オンライン計測 オンライン試着 着脱動作

I. 緒言

「重症心身障害児(者)」とは、重度の知的障がい及び重度の肢体不自由が重複している障がい児(者)のことで、昭和41年(1968)の旧厚生省の定義では、「身体的・精神的障害が重複し、かつ、それぞれの障害が重度である児童および満十八歳以上の者」となっており、元東京都立府中療育センター院長大島一良博士により考案された分類では区分1~4に相当する。また重症心身障害がい児(者)の総計は総人口0.03%の38,400人と推計され、その約4割が重症児(者)施設に入所している(岡田, 2013)。今回連携した社会福祉法人日本心身障害児協会・島田療育センターは日本で最初の重症心身障がい児(者)施設として開設され、「児者一貫した医療・療育」を続けるとともに、年齢や状態に応じた適切な日中活動が行われている。

重症心身障がい児(者)は日常場面で全介助となることが多い。特に衣服の着脱介助については、利用者の不快な反応として起こる筋緊張亢進などを介助者が十分に観察し、状況に合った内容やタイミングで声かけを行うことが必要となる(野地ら, 2013)。

このような肢体不自由による衣服の着脱の難しさや、着脱による骨折、衣服の形や縫い目などによる褥瘡の懸念等もあるため、利用者個人の状況に合わせた機能性や素材、デザイン性への配慮が必要となる。しかしながら、障がい等により着脱が困難な状況に対応した衣服の選択肢が少ないのが現状である。

今回は島田療育センターとともに、施設利用者であるモデルのAさん(40代女性)の身体に合ったおしゃれな日常着と、Bさん(60代男性)の還暦のお祝いのため、着物のリフォームを行った。この衣服の製作にあたって、コロナ感染症の拡大により、利用者との接触ができず、パターンを制作するための計測及び計測の指示をオンラインで行い、実際の計測と試着の介助を介護者が行った。いつもの慣れた介護者に介助されたことや、想定される状況などを介護者が提案しながら行えたこと、着脱の様子を確認できたこと、利用者本人の細やかな意思表示を確認しながら進められたことなど、示唆を得るものであった。またこれを第47回日本重症心身障害学会学術集会において、島田療育センターによって映像で報告された。その際に行ったアンケートとともに考察したので報告する。

なお、本研究は本学倫理審査委員会の承認を得ている。

1) Yoshiko Ohno, Noriko Onishi
山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

2) Megumi Harigae
株式会社リラ・ヴォーグ

II. 衣服製作の方法

モデルとなる 2 名の利用者（AさんとBさん）の衣服製作は以下の①～③の流れで進めた。

① 利用者モデル 2 名の衣生活に関する事前調査

日中の姿勢や移動の方法、食事や排せつの方法、着脱の留意点、衣服への要望などについて、資料に記載していただき情報を得た。

② オンライン計測

モデルに関わる職員の皆様と、オンライン（ZOOM）にて事前アンケートに基づいた確認と利用者モデルの身体計測を行った。

【 計測項目 】

身長、背丈（着丈）、背肩幅、袖の長さ（左右）、袖回り（左右）、胸囲、右肩先点から左肘頭点、腰囲、パンツ丈、股下、首回り

計測箇所と計測方法をこちらから説明しながら職員の皆様に計測していただいた。

なお、胸囲は着衣状態で測った寸法に留意する必要があり、常におむつを着用している重症児（者）はおむつを含めた臀突囲（腰囲）を計測することが重要となる（吉良ら, 2020）。

③ パターン製作、裁断、縫製、リフォーム

Aさんの上衣の製作には、筆者らが考案した着脱動作に配慮したパターンを使用した。このパターンは、右肩先点から左肘頭点（左右差がある場合は左肩先点から右肘頭点）までの長さを後ろ見頃のパターンに反映させる（岩波ら, 2002）もので、上肢肩関節に制限があっても袖周りにゆとりがあり、袖を通すことが容易になる。体型に合わせたパターン製作に加えて着脱を楽にするきりかえしなどの変更を行った。下衣のパンツ製作には、座位や仰臥位での胴衣や腰囲の計測値をパターンに反映させる（渡辺ら, 2004）もので、座位や仰臥位でも十分なゆとりがあるので着脱が容易になる。

Bさんの着物は要望に合わせた色やサイズの古着の着物をインターネットで購入し、本人や介助者が負担なく着られるようリフォームを加えた。

④ オンライン試着

職員の皆様とオンラインでつなげ、Aさん、Bさんともに 40 分程度かけて介助者により安全に試

着を行っていただき、その様子を確認した。利用者者に楽しい雰囲気です着していただくために、介護者とともに画面からも笑顔で話しかけるようにした。

III. 製作及びリフォームした衣服の詳細

Aさん（40代女性）

① 生活状況

Aさんは、日中はベッド上で仰向けか側臥位で過ごし、活動時は車椅子で過ごしている。気管切開し呼吸器を常時使用しているため体位を変えるのが困難。食事は経管栄養で排泄はおむつを使用している。骨密度が低い骨折しやすく、関節の曲げ伸ばしに注意が必要である。

② 普段の衣服の状況

呼吸器に衣服がかからないように、前開きのシャツで、綿やネル等の柔らかい素材やスウェット素材を着ている。腕の長さに左右差があるため長袖は袖を折り曲げて着ている。骨折しないよう全介助でゆっくり着脱している。

③ 衣服の工夫

【デザインシャツ】

Aさんの体型に合わせてパターンから作製した。襟を気切孔にかからない位置に下げ、着脱しやすいよう袖回りにゆとりをもたせた。左側の袖口から前見頃にかけてカットし、スナップボタンで留めるようにした。これは、Aさんが左腕を常に曲げているため、無理に腕を伸ばさないよう、また頭を通さずに着脱ができるようにするためである。

なお、スナップボタンは、凹凸がなく、とめやすいボタンのことで、子供用衣服や介護用衣服に使われている。体型に合わせて袖にゆるやかに左右差をつけているが、左右差の強調にならないようデザイン性にも注意した。また袖口は、袖の中に手が潜りこみにくくするとともにデザイン性を意識したカフスにし、無理なく袖通しができるよう見せかけのボタンとゴムで、袖通しがスムーズにできるようにしている。

また、機能的で肌ざわりのよい素材にこだわった。ポリエステル 100%（吸水速乾・吸水防汚・制菌加工（認証番号 067A07 トリコット鹿の子））

（写真 1）（写真 2）（写真 4）



写真1

左の袖



写真2



写真4

【ベスト】

トレンドを取り入れた日常着を意識し、気切孔にかからないVネックで保温効果のあるニット素材の既製服を、脇と肩がスナップボタンで留められるようリフォームし、着脱しやすくした。ウエストのリブはスリットにして着用時の衣服圧を軽減できるようにした(写真3)。



写真3

【パンツ】

Aさんの体型に合わせてパターンから作製した。履きやすさに考慮して臀部はゆったりとさせ、裾幅はすっきり細目にデザインした。機能的で肌ざわりのよい素材にこだわった。ポリエステル57%,複合繊維42%(2WAYストレッチ・UVカット) (写真4)

Bさん (60代男性)

① 生活状況

Bさんは、日中はベッド上で過ごすことが多く、車椅子かストレッチャーで移動している。食事は主に胃ろうより経管栄養で摂取しており、排泄はおむつを使用している。両腕の拘縮・筋緊張が強く、自分の腕で気切孔を塞いでしまいがちである。

② 普段の衣服の状況

腕・脚の筋緊張が強く骨折のリスクも高いため、衣服を思いきりひっぱってゆとりを作りながら着脱介助を行っている。気切孔・胃ろうがあるため前開きが望ましい。

③ 衣服の工夫

還暦のお祝い着として着物の希望があり、古着の着物と袴をインターネットで購入し、着脱しやすいようリフォームを行った。

【着物】

着物の衿に白い半襟(イメージ)を縫いつけ、長襦袢を着る工程を減らした。着脱の際や着用時にもたつかないように着物の丈を短かくし、左右の脇と前見頃の端に紐をつけて結べるようにして着心地の良さに配慮した(写真5)。

なお、着物はサイズの幅は広く袖まわりが大きいので着脱しやすい、代表的なユニバーサルファッションである。

【袴】

角帯をまく工程が負担にならないよう、袴の上部に角帯を部分的に縫い付けることで着付けの工程を減らした。前後の紐は短くカットし、左右をマジックテープでとめられるようにしている。また、ウエスト中心部に紐を結んでいるように見せるため紐で結び目を模した装飾を縫い付けている（写真6）、袴の脇にファスナーをつけ、前後が開いた状態にできるため、袴の上に身体を乗せて、左右に寝返りを打ってもらうことで着脱しやすくなる。介助者の着脱介護の負担軽減にもつながる（写真7）。



写真 5



写真 6



写真 7

【 アンケート結果 】

第 47 回日本重症心身障害学会学術集会で発表した映像を見た人を対象にアンケートを実施し 28 名の回答が得られた。製作した衣服に関する回答を以下に示す。

① 製作した衣服はいかがでしたか

回答	人数	%
1.よかった	25	89.3
2.ふつう	2	7.1
3.もう少し工夫が必要だと思った	1	3.6

〈 選択（よかった）理由 〉

- ・お洒落を楽しめるかつ、快適に着用できそうだったため。
- ・その方に合わせた工夫が素晴らしかったです。
- ・どこか出かけたときに機能性の高い服があると気軽に外に行きたいと思えるので良かったです。
- ・勤めていて私も病棟で使いたい！と思った。
- ・見た目も良く、着脱に際しての機能性も良い点が素晴らしかったです。
- ・衣服の専門家に依頼しオーダーメイド品を作成している点も羨ましく思いました。
- ・所属施設でも真似して取り組みたいと思います。
- ・自分で使うときのイメージがしやすかった。

〈 選択（もう少し工夫が必要だと思った）理由 〉

- ・着用している様子（動画）があれば、着やすさやフィット感がより共感できた。

② 重症心身障がい児（者）にとってのオーダーメイド衣服の必要性について該当するものを1つを選択してください

回答	人数	%
1.必要性がありできるところがあればぜひ依頼したい	11	39.3
2.必要だと思う	15	53.6
3.どちらともいえない	2	7.1
4.あまり必要ない	0	0.0
5.必要ない	0	0.0

③ 重症心身障がい児（者）の衣服選びで大切に思うことを3つ選択してください

回答	人数	%
機能性（着脱のしやすさ）	28	100
素材	24	85.7
デザイン性	12	42.9
洗濯など管理のしやすさ	12	42.9
サイズ	5	17.9
汚れにくさ	1	3.6
その他	1	3.6

〈 その他の自由回答 〉

- ・着た人と家族やスタッフが幸せを感じられること

IV. 考察

2名のユニバーサルファッションの完成までの経緯は、オンライン計測およびオンライン試着で完結することができた。オンライン試着では著者らの衣服の説明に合わせて島田療育センターの職員の方々が的確に着脱を進めて下さり、また温かい声掛けにより、利用者が安全に安心して試着が進められた。また職員の方々がタブレット端末を用いて映像や音声によって私たちを利用者に近づけ、声掛けできる配慮をしていたため、利用者の楽しい表情や喜んでる様子を感じることができた。また、いつもの様子がわかっている介護者なので、細やかな反応を逃さず伝えていただけ、意思疎通が図れることを実感できた。オンラインでの計測や試着はコロナ禍の対応であったが、コロナ後も“オンライン計測”や“オンライン試着”は、衛生面、安全面からみても効率的で有効な手段だと考えられる。

また、オンライン試着後に職員の方から改めて、モデルとなった利用者のお身体や雰囲気・TPOに合わせたオーダーメイドの素晴らしさに感激したとのご意見をいただくことができた。

製作したユニバーサルファッションを映像で見た人からのアンケートでは、89.3%が“よかった”という評価であった。“もう少し工夫が必要だと思った”という回答もあったが、工夫が必要だと思った理由が製作した衣服の見せ方に対する意見だったため、衣服の工夫への関心の高さととらえ、製作したユニバーサルファッションは総じて高評価だったと考える。また重症心身障がい児（者）にとってのオーダーメイド衣服の必要性については、92.9%が必要性を感じており、39.3%はオーダーメイドができるのであれば依

頼したいという結果であった。この結果から重症心身障がい児（者）の日常生活においては、個々の障害に合わせた衣服のオーダーメイドは重要な課題であることが想像できる。

また、重症心身障がい児（者）の衣服選びで大切に思うことについては、100%（全員）が機能性（着脱のしやすさ）を選択し、85.7%が素材と回答しており、サイズやデザイン性よりも着脱のしやすさや素材への配慮が強く求められていることがわかった。着脱のしやすさや素材への配慮が特に重視される理由として、障害が重度であるため、着脱による骨折や衣服が気管切開部位に触れて外れたり、ふさいでしまったりするなど、命に関わる高いリスクがあることを示している。

重症心身障がい児（者）の安全性や快適性、デザインに配慮した衣服製作は、ファッションショー等を目的とした、華やかで特別な外出着の事例も少数ながら進められるようになった。しかし、今回のAさんの衣服のような日常着にこそ機能性とともにおしゃれを中心としたさまざまな検討が必要と考える。

加齢や障がいによる着脱動作や素材に配慮した衣服の研究は進められているが、既製服として普及しにくいのが現状である。それは、人口比率から考えると、対象者が少なく小ロットでビジネスになりにくいことや、障がいによる衣服の問題の個別性が高く、よりパーソナルな対応が必要になることが理由と考えられる。とはいえ、高齢や障がいにより着たい衣服を着ることができない、また着脱できる衣服の選択肢が少ないため衣服のおしゃれをあきらめているという人は少なくない。

近年多様性への理解が進み、ユニバーサルファッションの理念と同様に多様性を理解し尊重する意識が浸透してきている。衣服の多様化も進み、アメリカのブランド「TOMMY HILFIGER」が2016年から着脱しやすさにこだわったアダプティブラインをスタートさせ2019年には日本での発売を開始している。また近年のパリコレクションやロンドンコレクションなどでは義足や車いすのモデル、年齢や体型を限定しない多様なモデルが登場するようになった。さらに、日本を代表するアパレル企業ブランド、ユニクロやユニテッドアローズが着脱しやすい衣服に取り組み、ファッション業界でも多様性が進みつつある。ユニクロは2020年から乳がん患者や入院・通院している人、介護を受けている高齢者、障がい者が脱ぎ着しやすい前開き仕様の前あきインナーを販売している。障がいの個別性に完全に対応しきれなくても、安価で販売数

が多く入手しやすいので重症心身障がい児（者）の購入率も高い。一部分でも工夫された衣服のメリットを活かし、さらにリフォームを加えることでより容易に個別性を追求しやすくなる。

またユニテッドアローズは、2018年から障がいのある人のための着脱しやすい衣服に取り組み、車いす利用者でも使えるレインコートやトップスなど販売している。SNSでも高齢者や障がい者に配慮した衣服やサービスを提供しているブランドを見つけることができるようになった。

また2022年のパリファッションウィークには日本障がい者ファッション協会の平林景氏が進める障がいがあってもなくても誰でも着られるブランド「ボトムモール BOTTOMALL」のコレクションが開催されて話題となった。国内外で高齢者や障がい者に対応した衣服の必要性が伝わることには価値がある。多様性の理解とともに、高齢や障がいによる衣服の問題の存在が認識され、当事者が声を上げやすくなる。着脱や機能性の高い衣服の事例を含めた研究が進むとともに、多様性の理解が有利に働き、既製服がより多くの人に着脱しやすく進化していくことが期待される。

今回、重症心身障がい児（者）の衣服製作を通して、個々の状態に合わせた着脱のしやすさや快適性が強く求められており、個別の障がいへの対応が必要であることがわかった。障がいを理解している人が衣服をリフォームやオーダーメイドできる仕組み作りが必要であると感じ、島田療育センターと連携し、衣服のリフォームやオーダーメイドの相談窓口が設けられ、株式会社リラ・ヴォーグが対応する仕組みができた。このような取り組みをビジネスとしても成り立たせるためには補助金など費用の面での課題解決も必要である。衣服の相談窓口が活性化すれば、より多くの個別の衣服の問題や要望に応えられるようになるものと思われる。

おわりに

第47回日本重症心身障害学会学術集会において、島田療育センター（重症心身障がい児（者）施設）の運営チームによる「ファッション」をテーマにした企画が映像で報告された。タイトルは「みんなでつくる一人ひとりの楽しみ方—コンサートに出かけましょう—」であった。その一つに山野美容芸術短期大学の介護職員初任者研修を受講している学生7名に、それぞれの利用者の情報を基に、施設利用者の日々の生活

の中にあるおしゃれの感覚に注目し、次のものを製作した。つけ襟、車いす用テーブルカバーとヘッドレストカバー、ひじあてカバー、スヌード、ボタニカルブーケ、手指の蒸れを防ぐグッズ（にぎにぎ）、手や首まわりを冷やすグッズ、布製のプレスレット、帽子、バッグ、などの製作の様子と実際に着用しているところが紹介された。そして映像の最後にユニバーサルファッションとして紹介されたのが、本稿のファッションである。

山野美容芸術短期大学の美容の視点と重症心身障がいという非常に繊細なケアを必要とする利用者に関わるスタッフとの連携が、個々の利用者の豊かなファッションを楽しめる社会に必要であることを実感した取り組みであった。

謝辞

ユニバーサルファッションの製作は、社会福祉法人日本心身障害児協会・島田療育センターの岩井理様をはじめとする重症心身障害学会運営チームの皆様やモデルとモデルの介助者の皆様の協力を得て実施することができた。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

利益相反の有無

なし

文献

- 1) 日本ユニバーサルファッション協会
<https://www.unifa.jp>
- 2) 学校法人山野学苑：四訂 美容福祉概論,中央法規,2020
- 3) 社会福祉法人日本心身障害児協会
https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/intro/about_jushin/
(2023.12.1)
- 4) 岡田喜篤：世界唯一の重症心身障害児医療福祉の今日的意味,2013,日重障誌 38 卷 1 号,p3-9
- 5) 重症心身障害児（者）の生活調査結果報告書：熊本市健康福祉子供局,2014
- 6) 吉良美緯ら：重症心身障害児（者）の衣生活支援と被服設計のための計測,2008,日重障誌 45 卷 3 号,p319-326
- 7) 多屋淑子ら：障がい者と介護者の QOL 向上を支援する衣服,2017,日重障誌 42 卷 1 号,p53-56
- 8) 多屋淑子ら：生活を支援する衣服一色と装いを楽しむ一,2014,日重障誌 39 卷 1 号,p61-65

- 9) 林沙織ら：障害があってもおしゃれを楽しみたい！一服飾専門学校と協働して重症心身障害者のおしゃれで機能的な衣類を製作した取り組み,2014,日重障誌 39 卷 2 号,p327
- 10) 多屋淑子ら：安心・安全・快適に楽しく着る,2016,日重障誌 41 卷 1 号,p93-96
- 11) 多屋淑子ら：共に楽しむアクセシブルデザイン,2015,日重障誌 40 卷 1 号,p109-112
- 12) 多屋淑子：心身共に快適で着心地の良い装い,2012,日重障誌 37 卷
- 13) 八木万里子ら：重症心身障害児（者）の衣服や更衣に関する調査,2009,日重障誌 46 卷 2 号,p237
- 14) 小野栄一ら：特集 リハビリテーションを支える繊維 I,2013,繊維誌 Vol69,No11
- 15) はげみ「特集 衣服の工夫」,社会福祉法人日本肢体不自由児協会,2020
- 16) 雙田珠巳ら：運動機能に障害がある人の着脱動作の分析と既製服の修正方法の検討,2003,東京学芸大学紀要 55,p66-71
- 17) 渡辺聡子ら：着脱動作を配慮した上衣パターンの検討,2002,繊維製品消費科学会,要旨集 p132
- 18) 渡辺聡子ら：座位姿勢に対応したパンツの試作,2005,繊維製品消費科学会,要旨集 p103-104
- 19) 大信田静子ら：ユニバーサルファッションを目指して,2015,北方圏学術情報センター年報,2018,Vol.8,p121-127
- 20) 見寺貞子, ユニバーサルファッションーすべての人の 快適な衣生活をめざしてー,2000,繊維誌,Vol41 No7 pp 26-33
- 21) 渡辺聡子：衣生活と介護,医歯薬出版,2002
- 22) 岩波君代,渡辺聡子,大野淑子：あなたは服に満足していますか,福祉技術研究所,2005
- 23) 岩波 君代,みんなにやさしい介護服,文化出版局,2005
- 24) 見寺貞子,笹崎綾野,ユニバーサルファッション おしゃれは心と身体ビタミン剤, 織研新聞社,2020
- 25) WWD JAPAN <https://www.wwdjapan.com/> (2023.12.1)

英文タイトル

Efforts to make clothes for people with severe mental and physical disabilities

提出日：2023/12/20